

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	20-039	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Profile of Reported Alcohol, Tobacco, and Recreational Drug Use in Nulliparous Women 初妊婦におけるアルコール、たばこ、娯楽用ドラッグ使用の概要		
執筆者		
Haas DM, Mahnke B, Yang Z, Guise D, Daggy J, Simhan HN, et al.		
掲載誌		
Obstet Gynecol. 2020 Jun;135(6):1281-1288. doi: 10.1097/AOG.0000000000003826.		
キーワード		PMID
大規模コホート, 初妊婦, 飲酒, タバコ, 受動喫煙, 娯楽用ドラッグ		32459419
要 旨		
<p><b>目的：</b> 米国ではアルコール、タバコ、娯楽用ドラッグなどの薬物使用が比較的一般的だが、妊娠中の女性と発育中の胎児に影響を与える可能性がある。本研究の目的は、初妊婦の妊娠中の自己申告によるアルコール、タバコ、および娯楽用ドラッグの使用率についてより正確かつ一般化したデータを入手することである。</p> <p><b>方法：</b> 2010.10-2013.9 に地理的多様な 8 州から募集された妊娠初期の初妊婦 10,038 人における nuMoM2b コホート研究の二次解析である。アルコール、タバコ、ドラッグ使用の自己申告は、妊娠 6-13 週(訪問 1)、16-21 週(訪問 2)、22-29 週(訪問 3)と出産入院中(訪問 4)の 4 回で縦断的に記録した。訪問では過去 30 日間の各薬物使用の有無を質問し、訪問 1 では妊娠前 3 ヶ月間についても質問した。各薬物の曝露量は検証された測定値を使用して記録し、一般化線形混合モデルを使用し妊娠中の各使用率の傾向を分析した。</p> <p><b>結果：</b> アルコール、タバコ、またはドラッグ使用の有効回答者は、それぞれ 10,028 人(訪問 1)、9,412 人(訪問 2)、9,217 人(訪問 3)、7,167 人(訪問 4)だった。飲酒率は、妊娠前(64.6%)から低下した(訪問 1:3.9%, 訪問 2:5.6%, 訪問 3:7.0%, 訪問 4:6.1%, すべて <math>P&lt;.001</math>) が、妊娠後期は初期よりも高い傾向がみられた (<math>P&lt;.01</math>)。妊娠前の喫煙率 17.8%は、訪問 1 (5.9%) で低下し、妊娠中低下し続けた(訪問 2 5.3%, 訪問 3 4.7%, 訪問 4 3.9%, すべての喫煙率が訪問 1 の喫煙率よりも低下 [<math>P&lt;.01</math>])。娯楽用ドラッグは妊娠前の使用率は 33.8%と一般的だったが、妊娠中は減少し続けた(訪問 2:1.1%, 訪問 3:0.7%, 訪問 4:0.4%)。</p> <p><b>結論：</b> 自己申告によるアルコール、タバコ、娯楽用ドラッグの使用率は妊娠前よりもすべて有意に低かった。しかし妊娠が進むにつれて飲酒率は上昇した。妊娠中の「安全な」飲酒量はないため、妊娠全期間を通して継続的なカウンセリングの必要性を示唆している。</p>		